

PAT-NO: JP409206414A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 09206414 A
TITLE: PUTTER
PUBN-DATE: August 12, 1997

INVENTOR-INFORMATION:

NAME
MURATA, MITSUO

ASSIGNEE-INFORMATION:

| | |
|---------------------------|---------|
| NAME | COUNTRY |
| KK SHINJIYUKU GOLF SHOKAI | N/A |

APPL-NO: JP08016638
APPL-DATE: February 1, 1996

INT-CL (IPC): A63B053/14

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To make it possible to prevent the hooking at the time of short putting by fixing a planar grip having a plane approximately orthogonal with the face of a head to the other end of a shaft fixed with the head at one end of the putter.

SOLUTION: This putter has the shaft 10 increased in diameter gradually toward one end side (head 12) side and is fixed with the metallic head 12 consisting of brass, etc., to the large-diameter side front end of the shaft 10 at its central part. The rubber grip 14 is fixed to the small-diameter side front end of the shaft 10. In such a case, the grip 14 is

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-206414

(43)公開日 平成9年(1997)8月12日

(51)Int.Cl.*

識別記号

府内整理番号

F I

技術表示箇所

A 6 3 B 53/14

A 6 3 B 53/14

F

審査請求 未請求 請求項の数2 OL (全3頁)

(21)出願番号 特願平8-16638

(71)出願人 596014955

株式会社新宿ゴルフ商会

東京都新宿区西新宿1-15-10

(22)出願日 平成8年(1996)2月1日

(72)発明者 村田 光雄

東京都新宿区西新宿1-15-10 株式会社

新宿ゴルフ商会内

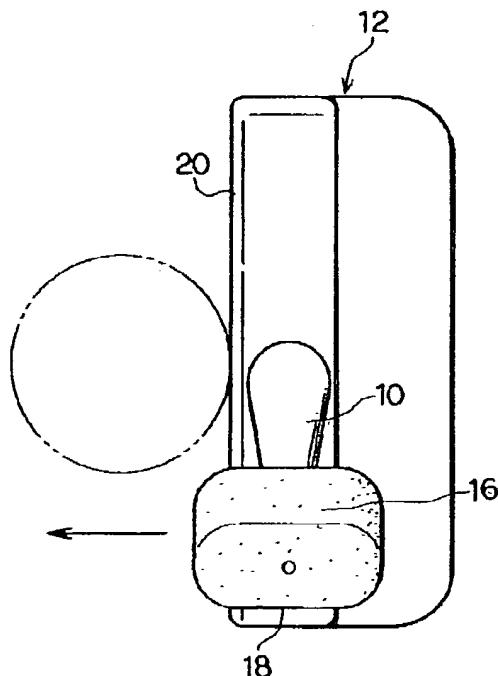
(74)代理人 弁理士 中島 淳 (外4名)

(54)【発明の名称】 バター

(57)【要約】

【課題】ショートパッティングの引っかけが生じないようにする。

【解決手段】一端にヘッド12が固定されたシャフト10の他端に、ヘッド12のフェース20に対して略直交する平面16を備えた板上のグリップ16が固定されている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】一端にヘッドが固定されたシャフトの他端に、ヘッドのフェースに対して略直交する平面を備えた板上のグリップを固定したバター。

【請求項2】前記シャフトのヘッドが固定された側を、前記シャフトのグリップが固定された側より大径にした請求項1のバター。

【発明の詳細な説明】

【発明の属する技術分野】本発明はバターに係り、より詳しくは、ショートバッティングの引っかけを防止したバターに関する。

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】従来のバターには、シャフト側が小径の略円錐台のグリップが固定されているのが一般的である。このため、特にショートバッティングにおいて、手の動きを小さくしてヘッドの動きを大きくしようとすると左の手首が折れてヘッドが先行し、フェースが左に向いてしまい、いわゆるひっかけが生じることがある、という問題があった。本発明は上記問題点を解消するためになされたもので、ショートバッティングの引っかけが生じないようにしたバターを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するため、請求項1の発明は、一端にヘッドが固定されたシャフトの他端に、ヘッドのフェースに対して略直交する平面を備えた板状のグリップを固定したものである。また、請求項2の発明は、請求項1の発明において、前記シャフトのヘッドが固定された側を、前記シャフトのグリップが固定された側より大径にしたものである。請求項1の発明のバターのグリップは、ヘッドのフェースに対して略直交する平面を備えた板状に形成されている。このため、グリップの平面を平行にカップの方向に移動させることにより、ストロークを真っ直ぐに行うことができ、引っかけが生じないようにすることができる。また、グリップを板状にすると通常のグリップより重くなるが、シャフトのヘッドが固定された側を、シャフトのグリップが固定された側より大径にしたので、ヘッドの効きすぎを抑制して安定したストロークができ、思い通りの距離感でバッティングすることができる。

【発明の実施の形態】以下図面を参照して、本発明の実施の形態を説明する。図1に示すように、本実施の形態のバターは、一端側に向かって徐々に径が太くなったシャフト10を備えている。このように、シャフトの径は

10

20

30

40

一様でないため、シャフトの重心は大径部側に位置する。このシャフトは、カーボン、ポロン、スチール、チタンとマグネシウムの合金等で構成することができる。シャフト10の大径部側先端部には、真鍮等で形成された金属製のヘッド12がその中心部で固定されている。また、シャフト10の小径部側先端部には、ゴム製のグリップ14が固定されている。グリップ14は、シャフト10方向に細長く、一様の厚みでかつシャフト側が尖った板状に形成され、表面16及び裏面18がヘッド12のフェース20と略直交するように固定されている。グリップ14の大きさとしては、幅45mm(シャフトの直径の略3倍)、長さ27mm、厚さ18mm(シャフトの直径より若干大きい大きさ)程度である。なお、グリップの側面は円柱面で形成されており、シャフトと直交する面で切断したグリップの断面形状は長円に形成されているが、側面を平面としてグリップの断面形状を矩形状としてもよい。このバターを使用するときには、グリップ14の裏面18が左掌に当接しつつ左親指がグリップの側部に当接するように握り、フェースがストローク方向に対して直交するようにアドレスし、グリップ表面(または裏面)を平行(図2の矢印方向)にカップの方向に移動させる。これにより、ストロークを真っ直ぐに行うことができ、引っかけが生じないようにすることができる。

【発明の効果】以上説明したように請求項1の発明によれば、ヘッドのフェースに対して略直交する平面を備えた板状のグリップを備えているため、グリップの平面を平行にカップの方向に移動させることにより、ストロークを真っ直ぐに行うことができ、引っかけが生じないようにすることができる、という効果が得られる。また、請求項2の発明によれば、シャフトのヘッドが固定された側をシャフトのグリップが固定された側より大径にしたので、ヘッドの効きすぎを抑制して安定したストロークができ、思い通りの距離感でバッティングすることができる、という効果が得られる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施の形態の斜視図である。

【図2】上記実施の形態の上面図である。

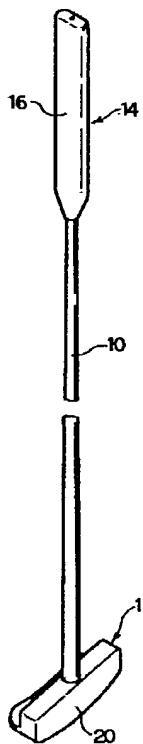
【符号の説明】

10 シャフト

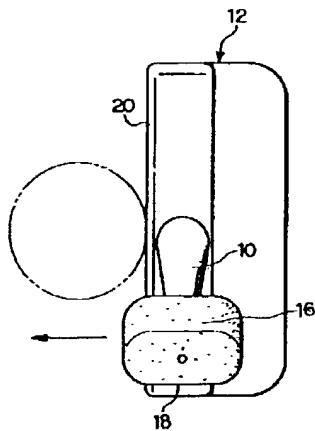
12 ヘッド

14 グリップ

【図1】



【図2】



formed to a planar shape which is slender toward the shaft 10, has a uniform thickness and is pointed on the shaft side. The grip is fixed by directing its front surface 16 and rear surface toward the direction approximately orthogonal with the face 20 of the head 12. At the time of use, a user addresses to a ball by holding the grip 14 in a manner as to press its rear surface to the left palm and to press the left thumb to the side part of the grip and puts the ball.

COPYRIGHT: (C)1997, JPO